

洛東の丘

～校長室から 洛東生の皆さんへ～
令和2年9月4日(金)第16号

今週の四字熟語

適材適所(テキザイテキショ)

その人のもつ才能や適性に、ぴったりあった仕事や役割につかせること

☆すべては自分自身の人生設計に向けて☆

2学期が始まり20日あまりが経過しました。今学期は**ピッシリ4ヶ月間**の長丁場です。酷暑の葉月、残暑の長月、秋風さわやか神無月、木枯らしの霜月、風花舞う師走・・・と、季節も大きく変わります。この4ヶ月は進路実現という観点において、どの学年にとっても**次年度に向けて大変大きな意味**を持ちます。

いつも言いますが、**「進路実現」とは「〇〇大学に合格した」とか「〇〇会社に内定をもらった」とか言うことではありません。**人生の将来設計を立てたうえで進むべき進路を実現するということです。早く決めて残りの**高校生活を楽に過ごしたいがために安易に行き先を選ぶと、後々にツケが回ってくる**可能性があります。もちろん、「一寸先は闇」ですので、「こうしよう」「こうなりたい」と決めていてもその通り事が進むわけではありません。しかし、その「こうしよう」「こうなりたい」がない日々というものは、**「進んでいる」のではなく「流れている」と**でも言いましょうか。自分の足で歩いているとは言えません。後々に**「目標の変更」はあっても大丈夫**。しかし、何も持たずに流されている日々は、**「命の無駄遣い」と**言えます。

- 1年生 3学期にはその段階での「目標校」や「目標とする職種」を決めよう！
- 2年生 3学期には「志望校」や「志望職種」を決めよう！
- 3年生 内定に向けて一心不乱で。そして内定は「ゴール」ではない。4月以降の生活をイメージして将来設計を立てよう！



保健室前に新しい掲示をしていただいています。皆さん、ぜひクイズに答えてみてください。ちなみに私は半分間違えました。

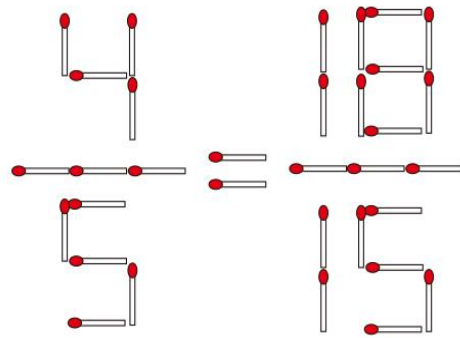


職員室前のスペース。質問や相談など色々活用してもらえます。ここは西日がとってもまぶしいので、このほど、技術職員さんに、簾(すだれ)を設置していただきました！

図のように、マッチ棒で「 $4/5=18/15$ 」という間違った式ができています。

マッチ棒を1本だけ動かして、正しい等式を成立させてください。

さて、どのような等式にすればいいでしょう。その式を教えてください。



♣ 池江璃花子 選手（日本大学）の挑戦 ♣

池江選手の名前は一度や二度は耳にしたことがあるという人が多いのではないのでしょうか。池江選手は、中学校・高校時代から大活躍。自由形とバタフライの個人種目で計五つの日本記録を持ち、2018年ジャカルタ・アジア大会では6冠を達成して大会の最優秀選手に選ばれました。当然2020年東京オリンピックに期待が高まるなか、昨年2月、白血病と診断され療養生活を余儀なくされました。しかし、自身のSNSで治療のプロセスや思いなどを発信し、逆境におかれても決してあきらめない強さを届け続け、12月に退院し今年5月から本格的な水中練習を再開していました。

そして、8月29日、東京辰巳国際水泳場で行われた東京都特別水泳大会で1年7カ月ぶりの実戦復帰を果たし、女子50メートル自由形に出場。10人が泳いだ組で1着となりました。池江選手は「組で1番になれるとは思っていなかった。何も考えずに楽しんで泳ぐことがテーマだった」と語りました。記録は自身の日本記録より2秒11遅い26秒32で、当面の目標としていた10月の日本学生選手権（インカレ）出場に必要な基準タイム26秒86はクリアしレース後には涙ぐむ場面もあったということです。池江選手は「自分がまた、この場所で泳げたことに感動した。いいリスタートができたんじゃないかと思う」と話し、現在は2024年のパリオリンピック出場を目指しています。

こうして、文章にすると事実経過が淡々と入ってくるだけですが、池江選手の苦悩、葛藤、悲しみ、絶望・・・は計り知れません。そして同時にこの時期に復帰を果たしたことには驚きを隠せません。池江選手の発する言葉・表情・パフォーマンスには、日々挑戦し続けている人にも宿る、強さ・信念・誇りなどがあふれています。パリオリンピックに向けて挑戦を始めた池江選手に心からエールを送りたいと思います。

皆さんには、こういったトップで活躍、或いは困難を克服した人達の話を知ったとき、決して「雲の上の話」とか「住む世界が違う」などと卑屈に考えないでほしいと思っています。生きるステージが違おうとレベルがかけ離れようと、そんな事は関係ありません。自分が今立っているところで、環境や条件に文句を言わず、常に最善を尽くしきろうと挑んでいけば、ステージやレベルの違う人の話も必ず通じるものがあり、取り入れることのできる考え方や手法が見つかるはずです。「雲の上」とか「住む世界が」とか思ってしまう人は残念ながら、何にも本気で取り組まず、何にも挑んだことのない人です。高校生の今、目の前の「楽」にばかり流されるのではなく、本気で取り組んだ者にしかつかむことのできない「楽しさ」を目指してほしいと願っています。

池江選手のパリオリンピックへの道は気の遠くなるような道のりだと思います。大病を患いながら過酷な道に果敢に挑む池江選手から、今後も目が離せません。